

Never give up your Dream・あきらめない気持ちが未来を変える

小山ボーイズニュース

NO. 26

発行責任者 〒323-0820 栃木県小山市西城南7-6-9 N.P.O法人小山ボーイズ球団 飯田研二

1日24時間を有効活用、学校でも野球でも急上昇だ！

今、考え方を換えられれば 行動も換えられる

新3年生の面談

なぜ、この時期にやるのかと言いますと「僕は〇〇高校へ行って、甲子園に行きたい」「全国大会に出たい」ということです。ならば今からやらないと間に合いませんと言うことです。

2年生から3年生になる前に、チームの最高学年としての大切な心構えを確認するために実施しています。

今のままの自分、今までの成績で良いというのでは成長がありません。さらに上を狙うためには、自分が変わらうと思わなければならない。自立を促して変わってもらわないと前に進みません。他人が見て変わったと思えば大きな成長。3年生になれば、学校でも野球でも競争に拍車がかかり、進学を目指す事で、より真剣にという気構えが必要です。

そこで、分かりやすいマイナーチェンジを勧めます。まずは「風呂の中で、大きな声で歌を歌う」ことです。自分の気持ちを前に押し出すために声を出す。歌は場を和ませますし、気分もリフレッシュします。一芸は身を助けると言いますから、歌は真剣に練習です。

もう一つ、時間の使い方について助言をします。一日24時間の使い方です。目標への速度が違うし、心構えが変わります。野球も学校も毎日やるものだから、上達しない訳にはいきません。

○起床 6時 素早く着替える

○朝学 30分 自分で決めた学習

○朝食 どんぶり2杯は規定

○学校 休み時間を利用して自学

○給食 完食（食べられない仲間）に気を遣い、食べてやる

○帰宅 練習前に、おにぎり一個

○練習 自主練習は自分で考える

○練習後 帰宅前に、おにぎり一個

○帰宅 玄関前で、素振り30本

○夕食 どんぶり2杯は規定

○入浴 独唱

○リラックス 睡眠7時間は規定

という時間割を自分なりに決めて、

毎日の生活を送ることを助言します。

たとえば、英語で苦戦している子は

英単語5個を毎朝ノートに書いて覚える。

そのノートを練習で監督に見せる。

帰宅後の自主練習は、例として素振り

を30本毎日続けるとしましたが、

子供に聞くと200本なんて言います

が、毎日やるには毎日やるだけの目

標でいい。背伸びしても継続できな

ければ意味がありませんから、本当に

できるだけいいんです。

それは本気で全国大会に行きたい。

本気でよい高校に行きたいと思っ

たら、やる以外に方法がないのです。本

気で勝りたいと3年生が思えば態度が

変わります。どうせ毎日、学校も野

球もやっています。成績は良くないと

面白くありません。だから、本気で

やる。本気でやる姿を下級生が見て

吸収する。これが我々という好循環

がベストです。これが我々

の教育だと思っています。小学生から中学生へと成長すると、欲が出たり、楽しんで手抜きをしたり、不貞腐れたりという道を歩きます。その気持ちに打ち勝つて、素直に上手くなりたい、素直に学業の成績を上げたいと思う事が変わる事で、歌を歌うという事は、恥ずかしいが、変える第一歩だと思わなければなりません。今、変わってくれればチーム全体の行動が変わります。勿論、指導者や父兄も変わろうとすることが大切です。

第6期卒団生17名紹介

廣田龍志（栃木南中） 早稲田佐賀高
西川元氣（小山市城南） 浦和学院高
竹村春樹（栃木西中） 浦和学院高
竹村翔（古河二中） 青藍泰斗高
浦澤健太（大平南中） 日本航空高
大川恭介（佐野南中） つくば国際高
渡辺 聖（佐野南中） 鹿島学園高
池田孫武（結城中） 霞ヶ浦高
渡辺祥伍（関城中） 鹿島学園高
河添峻太（結城中） 国学院栃木高
霜田麻斗（小山市城南） 松本第一高
村上 一稀（三和東中） 白鷗足利高
神谷純希（下館西中） 鹿島学園高
吉沢 有（若松原中） 東京農大二高
鈴木晃希（結城中） 松本第一高
野村亮太（若松原中） 浦和学院高
沢辺義之（古河二中） 土浦日大高
（他に現在卒団生が在籍している高校）
文星芸大付高・千葉英和高・慶応高・
専大松戸高・高崎健大付高・下妻二高

野 球 考

コラム

子供の頃、神社の境内でやった野球。棒切れや竹の棒をバットにして、テニスボールみたいなゴムボールで、集まった人数だけで遊んだ野球。素手で取れるからグローブもいらない。

畑の中や屋敷の中に打ち込んで、怒鳴られたものだ。「コラーッ!」「逃げろ!」ということで面白がっていた面もある。家に電話が掛かってくる訳ではなく、学校に通報される訳でもない。大人の器量も大きかった。野球のルールは即席で決められる。子供たちの自前のルールだ。いつの間にか始まって、腹が減ったら家に帰る。野球って面白い遊びだった…。面白いから、毎日やっていた。

夏休みは、ラジオ体操・遊びの約束・野球・ひるめし・水泳が定番で、水泳の川に行く途中、畑のキュウリやスイカを失敬する。なんとも懐かしい時代でした。

今では、野球好きが高じて子供たちの野球に携わるようになり、およそ20年のところで、少年たちへの指導法について考えてみることにしました。

「野球の指導とは、どんなものでどうすべきものなのか。」なぜ、このようなことを考えるのか。それは、子供たちには「ずっと、野球が好きでいて欲しいこと」「野球をやると、こんなに面白い」という指導法がベストではないかと思っているからです。

ボーイズリーグ関東ブロックで行われたジャイアンツアカデミーの倉俣さんの講習会で、少年期の子どもたちの成長度を分かりやすく解説していました。さらに、ロサンゼルス・ドジャースのスカウト小島圭市さんの話を聞いて、まさに指導の改革と野球界の発展に対する熱い思いを聞く事ができたことは素晴らしい出来事でした。

お二人の話と文献を参考にして、いろいろと考えていくと、実に面白いことがわかりました。

例えば、神経系の発育は、小学校入学時には大人の約90%に達している。小学校低学年の頃は、動きの器用さなどいわゆる運動神経を刺激するのに適した時期で、幼稚園年長から小学生の頃に、ボールの投げ方などは覚えられる時期となっています。

また、骨や筋肉、呼吸器や循環器などの発育は、小学校高学年で大人の50%程度で、中学校後半で80%になる程度なので、中学校後半から高校にかけて「動きの力強さ」や「動きのタフさ」を求めていくのはいいでしょうとなる。

少年期に何を求めるかといえば、体力的に無理がないように配慮しながら「動きのうまさや器用さ」を伸

ばしていくことだとすれば、この時期に投げる・打つ・走ることの動きを教えることが善いと分かります。

しかも、子供の頃には、いろいろなスポーツや遊びをこなして、幅広い運動を経験したほうがよく。運動神経を刺激し発達させるがベストとなっている。

そう、スポーツは元来遊びであることが基本にあり、遊びにはルールがある。子供はそのルールを率先して守り、夢中になり、時間を忘れて楽しんでいる。

つまらなくなれば自然に止める。やり過ぎないように注意するのが大人の役目です。かつて、自分も遊び疲れて、家に帰って「どこで遊んでた!」と怒られたように、これが遊び・スポーツの原点なのでしょう。

大人は、遊びの中心にいては邪魔な存在で、手助けをすることが役目なのかも知れません。

また、少年期には、物事を考え、推理し、意志決定をする脳細胞の発達が盛んになるそうで、この時期に子どもに自分で考えさせたり、自分で決めさせたりすることが重要になる。

ところが、この時期に詰め込み主義で、ああしろ、こうしろと子どもに接すると、子どもは考える時間をなくし、思考力や判断力が乏しくなるそうです。

そうすると、私自身も反省せざるを得なくなる。そこまで考えて子供と接していただろうか。

我々のようなクラブチームに選手たちを入団させた親は、こう思っているのではないかな。

クラブチームに参加させれば、自分たちよりも専門的な知識や技術を持った指導者が、よく考えられたカリキュラムにのっとって指導してくれるので、子どもは鍛えられ、たくましくなっていくと考えている。

当然、親は、強くたくましい子どもにしたい。友だちを作り、道徳心を育てたい。(次ページへつづく)

旅行のことなら、
たび倶楽部
感動との出会い
たび倶楽部
海外旅行～日帰り旅行
ご相談は**たび倶楽部**
TEL 0282-62-2813

BASEBALL
PRO SHOP
石川スポーツ
TEL 0282-24-3161
専門スタッフが心からアドバイスをします。

小山ブランド
おとん弁当
＜炭火焼肉 600円＞
これは美味しい!
話題沸騰中!
TEL&FAX 0285-23-5329

LPガスHOTライン
本社(小山市出井)
0285-30-1011
下野支店
0285-53-7751
(株)トチネン

しかし、子どもは「おもしろそうだから」、「かっこいいから」、「やってみたいから」などの単純な理由でスポーツをやる。

特に野球は、プロ野球や甲子園というマスコミを通じて目にするスターたちにあこがれて、自分もスター選手になりたいということで熱中している。

グラウンドでは、しっかり挨拶できるようになり、親も私も子供たちの成長を喜んでしまうことになるが、常に疑問を頭に置かねばならない。

- ①「やる気」は野球の時だけではないのか。
- ②「礼儀」「あいさつ」がグラウンド外で出来るのか。
- ③学校の先生の言う事をキチンと聞いているのか。
- ④家庭ではどうなのか。

そこで問題視するものが、指導者に言われたことしかやらない。指導者の前でしかやらないということだ。

「管理」のしすぎは、選手の自主や自律の妨げになる場合がある。

親に買ってもらったユニフォームを着て、指導者が言うとおりに動いていれば、親も「何かをやった」「やらせている」という気分になる。子どもが野球をする環境のすべてを親が用意し、指導者も厳しい訓練に耐えさせようという背景には、練習の厳しさに耐えて初めて強くたくましい心や体を築くことができるという基本的な考え方がある。

その裏事情にはこういうものもある。放っておいたら何するか分からないという悪戯な子の場合だ。ユニフォームさえ着られれば脈があるので「ずっと、練習させておけば、悪い事ができない。」これもある意味では有効な方法とも言えるが、それでも面倒のかかる子は、冷たいかも知れないが、一旦その方向に向かわせるしか方法がない。

指導者たる大人も「教え込むことが指導者であると」罵声を浴びせて、思い通りの選手にすることを生き甲斐にする者も少なくない。

ただ、相手は子どもなので、自由な発想や自立心を育てることや野球を本気で集中させるには、指導者のアドバイスのタイミングとその方法には工夫が必要ではないかと思う。

子どもがやる気のないとき、あるいは聞く気がないときに、いくら良いアドバイスをしてもダメであり、長い説明は輪をかけて通じない。勿論、強引に言っても「はい」と言うだけで、何の意味も持たない。子どもがその気になったときに、少しだけヒントを与える

だけでよいと思われる。

子供に何度注意しても理解されていないことを「あいつは何を言っても分からない」というのは、感情的には理解できるが、タイミングを外している場合が多いのではないかな。

理由はクラブチームにいる選手たちは上手くなりた・教えて欲しいと思っている筈で、当然のように指導者の理屈は伝わることになる。

子供たちには「ずっと、野球が好きでいて欲しい」「野球をやると、こんなに面白い」と思っていて欲しいと述べたが、「面白さ」の基準は心と体・頭脳の成長とともに違いがあつて、小学生・中学生・高校生が同じ筈はない。外野の大飛球に満足する小学生はいるが、それを喜ぶ高校生はいない。しかし、基本的な部分である、遠くに飛ばしたい・遠くに投げたい・上手くなりた・というのは変わりようがない。

我々指導者は、子供と接しているという感覚を常に持つことが大切なんですね。思春期を過ぎて自立するために、自分はダメなんだという否定的な自己イメージを作らせたくありませんから、注意するときの発言にも気を使うことを忘れないようにしたい。

現代用語である「パワハラ」は、人間社会の至る所で精神的圧力をかけるとして問題となっている。

指導者に言わせれば、本人の反発を期待するということになる。確かに理不尽な物事・理屈の通じない物事は社会には出現するが、子供であり、中学生であるので、その選手の器量を見極めて発言しないと、選手の若き鋭い感性がゆがむ事になりかねない。昔のように先輩後輩の関係で理不尽な世界を感じる事が、現代は余りないので、クラブ活動で体験することも重要とは感じるが、具体的に示すこともないと思う。

ふざけている選手はグラウンド外に出すなど、厳しい練習環境を作って、規律を教え、成功体験をさせることで「俺はできるんだ」という感覚的な土台を作ることが重要だと感じている。(了)

アポロスタジアム 真岡イオンに出現

バッティングセンターを開店したアポロススポーツ代表海老沼邦和さんは「絶対面白いから来てください」と。(真岡イオン1F)



店内では、元阪神タイガース中野佐資さんの野球塾が行われていました。熱く丁寧な中野さんの指導に親子して感嘆しきり。

GO!GO!
OYAMABOYS
小山ボーイズを応援する会



小学生を引っ張る小蔦コーチ（体験練習にて）



上は、大平山の階段登り
下は、うれしい夕食（冬合宿）

ベスト
ショット
2011



42. 195kmをリレー。2時間2分7秒で優勝（アンカーの吉沢君）



6期生の神妙な表情・卒団式



「ランナーはセーフ」と言っていますね。「どうですか、難しいね」



須賀神社にて必勝・健康・学力向上祈願。たっぷりと祈願



朝比奈君の打撃。課題だった左方向へのヒットを打っているようです。今年は楽しみです。

野球が大好きな子供達へ・入団募集中！ 逞しい青少年育成に全力で取り組む、NPO法人小山ボーイズ球団